

会 議 名	令和3年度 第1回板橋区健康づくり推進協議会
開 催 日 時	令和4年2月10日（木）から同年2月21日（月）まで
開 催 方 法	書面による会議
出 席 者	委員 22 名 〔委員〕 許 会長 安藤委員 井谷委員 藤垣委員 宇和川委員 齋藤委員 小林（顕）委員 加藤委員 清水委員 横田（修）委員 三原委員 柳澤委員 横田（洋）委員 小林（英）委員 土田委員 小井土委員 片寄委員 北村委員 藤井委員 浜名委員 小岩委員 茂田委員
会議の公開 （ 傍 聴 ）	非公開（傍聴できない）
議 題	(1) 「いたばし健康プラン後期行動計画 2022」の進捗状況について (2) 「歩いて貯めよう！いたばし健康ポイント」事業の実施状況について (3) 受動喫煙防止対策の取組について (4) 後期高齢者医療健康診査におけるフレイル予防への取組について
配 付 資 料	資料1 板橋区健康づくり推進協議会（第12期）名簿 資料2 東京都板橋区健康づくり推進協議会条例及び同要綱 資料3 「いたばし健康プラン後期行動計画 2022」の進捗状況について 資料4 「歩いて貯めよう！いたばし健康ポイント」事業の実施状況について 資料5 受動喫煙防止対策の取組について 資料6 後期高齢者医療健康診査におけるフレイル予防への取組について
審 議 状 況	会議録（要約）のとおり
所 管 課	健康生きがい部 健康推進課 健康づくり係 電話 3579-2302

1 協議会委員の意見要旨

議題1 「いたばし健康プラン後期行動計画 2022」推進事業の進捗状況について

(1) 「2 全体の進捗状況」について

(許会長) 新型コロナウイルス感染拡大の困難な状況から多少の遅延等はせざるを得ない。収束の後に頑張っていたきたい。

(井谷委員) 新型コロナウイルス感染拡大の影響で、進捗状況に大きな影響が出ていることは、充分許容される範囲ではないか。未曾有の事態への対策についてまずは十分な労力が必要であり、収まった段階で再開を検討するということが良いのではないか。

(加藤委員) 新型コロナウイルス感染拡大において、色々な事業を実施継続していくのはしばらく難しいだろう。今後もしばらくは状況に応じて実施していくべきである。

(横田(修)委員) 新型コロナウイルス感染拡大が終息した後に、良い方向にいくだろう。

(小岩委員) 新型コロナウイルス感染拡大が収束しないと先へ進めない。

(小林(英)委員) 新型コロナウイルス感染拡大にあっては事業の実施は無理が多くあったが実施できなかった事業が8事業で、多くが実施できたことは評価できる。

(藤垣委員) ICT活用により動画配信やオンライン講座を開催するだけでなく、これらが利用できるような支援が必要。

(宇和川委員) 新型コロナウイルス感染拡大により対面での事業が困難になり、区民への伝達方法も多様になって新たな課題となる問題も出ていると思われる。今後も続くと予測される状況の中で、事業の方法を検討して行かなければならない。

(齋藤委員) 新型コロナウイルス感染拡大により、各種事業が制限、中止されることが多く、今後も状況はしばらく変わらないと思われるが、感染対策を行いながら計画の実行を行う努力や工夫は必要。

(三原委員) 新型コロナウイルス感染拡大により、事業の中止や縮小を余儀なくされた中、動画やオンラインを活用して実施されたとの事で、様々な工夫をされてたいへんありがたい。今後は平常時でも内容や対象者に応じては、同様の方法も活用し、より多くの方に情報発信等出来ると良いのではないか。また、区職員の負担軽減という面でも有効ではないか。

(土田委員) 新型コロナウイルス感染拡大の影響で中止等があり遅延されている面を再検討し具体的活動計画が打ち出される事を希望する。

(北村委員) 新型コロナウイルス感染拡大の影響はやはり大きいものがあつたと認識した。そういった状況下でも工夫を凝らしできる範囲で取り組まれたことに感謝する。今後も継続して取組んでいただきたい。

(藤井委員) コロナ禍での事業実施は大変なことと思うが、書面に記されていたように見直し、検討の必要性を感じる。ウィズコロナ、アフターコロナに向けて検討していただきたい。

(浜名委員) コロナ禍では、この活動進捗はやむを得ないが、落ち着いてきた後にどのように行っていくかが問題。人々の意識が以前とは変わり、そのままという訳にはいかない

だろう。区民の活動の内、ボランティア活動では多くが高齢者であることを踏まえ、考慮の必要がある。

(茂田委員) 令和元年より始まった各事業計画も令和2年度末までの終了事業は5事業とあるが、今後の工程や新型コロナウイルス感染拡大の影響を考えスケジュールの見直しが必要と考えられる。

(2)「3 区民の行動目標別にみた進捗状況 ①～⑩」について

(宇和川委員) 自分の健康は自分で守る意識を高めると同時に相談や支援について身近にあることを知って頂くことが大事である。②こころの病気については、うつ・うつ状態の人が新型コロナウイルス感染拡大により2倍以上に増加、自殺者も増加するなど、特に若い世代、女性の増加が問題となっている。相談する場所、方法を認知する必要がある。コミュニケーションの大事さを改めて思う。③ワーク・ライフ・バランスでは、妊婦の感染、子どもの感染などが不安であり職場の対応についてはたらきかけは大事。④予防接種とワクチン接種の関係への戸惑いを持たれている方も多いかと思う。⑤歯科健診の減少について、口腔内の衛生管理が生活習慣病予防にもつながるなどをよく理解していただけるよう情報の発信をお願いしたい。

(藤井委員) ②のこころの病気に関心を持つ事業については、新型コロナウイルス感染拡大の中「コロナうつ」ということもあるので、相談窓口を手厚くしていくことも必要。

(井谷委員) ③ワーク・ライフ・バランスを実現するについては、新型コロナウイルス感染拡大の影響でかなりクローズアップされる問題である。テレワークへの積極的な転換が進められる中、今後考える余地の大きい分野である。

(齋藤委員) ワーク・ライフ・バランス推進企業の応募が少ないのが気がかりである。もう少し、周知が必要ではないか。

(浜名委員) 行動目標の多くは、少しずつ人々の意識が向上していると思う。しかし、本来生活行動を変えてほしい人ほど、いわれなくてもわかっているよ、うるさいなという思いが強く、特に現役世代に多いのではないか。働き方、仕事という考え方は社会や会社の扱いが重要で、例えば女性の社会進出はとても良いことだが、そもそも今までの男性の働き方が良くないのに、女性にそれをなぞらせている気がする。労働力不足や、家計が一人の収入ではもたないというような余裕がない中では、ワーク・ライフ・バランスも言葉だけになっていると感じる。初期のコロナワクチンで、「かかりつけ医で」とあったが、現役世代にはかかりつけ医が無いのではないか。何かあってもどこへいけばいいかわからないというのが実情で、「ネットで検索」もなじまないように思う。

(藤垣委員) ⑤の「飲酒の適量を知り、飲み過ぎない」は、現在飲酒自体が種々の疾患のリスク因子であるとの認識になってきている。私自身も適量と言われても回答が難しい。「飲酒の害を認識し、飲み過ぎない」などはどうか。

(片寄委員) 健診・がん検診について、コロナ禍において健診控えや医療機関の受け入れ体制により受けたくても受けられないという状況があると思う。コロナ禍でも安心して健診を受けられる対策が必要と思う。

(北村委員) 検診の達成率が下がっているのが気になる。新型コロナウイルス感染拡大に

左右された事もあるかとは思いますが、引き続き必要性を区民の皆様へ周知していただきたい。

(三原委員) アプリの活用等により、予防接種の案内等を時代に合わせた形で発信されており、高い水準で実施がなされている。今後も引き続き勧奨いただきたい。

(小林(顕)委員) 直接に区民が参加・行動するような事業では、例えば、板橋区歯科医師会から歯ブラシ等を提供し、歯科衛生の周知も兼ねて参加のインセンティブを図るなど、区関係機関と連携して実施することはいかがか。

(加藤委員) コロナ禍なので、事業実施、継続が難しいので重要度を判断して規模縮小して必要なものから取り組んでいくと良い。

(柳澤委員) 感染症の影響で取組が十分にできないのは仕方のないことである。

(横田(修)委員) 健康づくりを進めて人生を元気にしていくために、大変によいことだと思う。

(茂田委員) 特に生活習慣病をなくす、日常生活で歩く習慣をつける、自分の健康確認のため定期健診・検診の受診、地域活動の絆を持つ事がポイントだと思う。

(土田委員) 重点目標・新規目標の PDCA は必要。広報紙に定期的に掲載することも必要と思う。

(小岩委員) ④で実施している「健康ポイント事業(実証)」のさらなる強化を望む。

(3)「3 食育の推進」について

(許会長) フレイル予防においてオーラルフレイル予防が極めて重要であり「食事とお口の元気力アップコース」への期待は大きい。また、コロナ禍で孤立しがちな高齢者に対する会食サロン事業、ふれあいランチ広場事業をいかに安全にかつ強力に進めていくかが大きな課題である。

(小井土委員) 新型コロナウイルス感染拡大で中止になっている事業について、高齢者が楽しみにしている事業や妊婦さんのための事業は時期をみてぜひ再開してほしい。

(井谷委員) 『『新たな日常』やデジタル化に対応した食育の推進』に関しては、コロナ禍の経験もあり、安全な外食のあり方について、充分検討の余地があると思われ、区民のニーズも高いと思われる。ぜひご検討・追補をお願いしたい。

(藤垣委員) 和食文化の継承と減塩とは相入れないところがあると思う。将来的な健康に配慮した文化の継承ができればと思う。

(宇和川委員) コロナ禍で家庭内食が増えているにも関わらず、若年者のスキル不足などがあるので、日々の食事の大切さ、料理への興味とスキルの向上などの工夫が必要。主食、主菜、副菜を組み合わせる食べる食べ方も大事である。

(齋藤委員) 今後も食育の推進は必要。特に子供世代や高齢者の栄養バランスの重要性について伝えていく工夫が必要である。

(小林(顕)委員) 事業数が多いように思う。整理・統合の必要があるのではないか。

(加藤委員) 畑から実っているのを見て料理する等、若い世代にとってはとても興味のあるところだと思う。できれば現地開催が良いが、コロナ禍なので、オンライン等でも参加できるとよい。

(横田(修)委員) 食生活について、関係する各業種に話をしていきたい。

(三原委員) 幼稚園では園によるが、お米や野菜の栽培、調理体験等の活動を通して、食や健康に関して興味を持ってもらう取り組みをしている。また、保護者に対しても食に関する発信などを行っている。官民それぞれ啓発を行い、引き続き健やかな成長と健康長寿の国づくりの一助となればと思う。

(柳澤委員) 健康づくりに関連する栄養や塩分の摂取などの啓発取組みにしぼった方がよいのではないかと。

(小林(英)委員) 食育は、健康でいることの第一歩であるから年代を問わず大切である。

(藤井委員) 若い世代、健康寿命の延伸、2つの事業とも工夫された事業展開になっている。

(浜名委員) 学校給食が栄養の源となっている児童が多いこと、成人もジャンク食が多く、若い女性は痩せ願望や食費を浮かすためにおにぎりとお茶という食事も多く見かける。一方、サプリメントも売れている。食事の支度は面倒だが、生きる基本である。しかし家庭の食事が崩壊しているのではないかと、とても危惧している。

(茂田委員) 食育は健康寿命に直接繋がるので重要な課題であるが基本的なポイントは、規則正しい食生活を心掛ける、平均的な食事バランスを取り偏った食生活をしない、健康に直接関係するので排尿排便も規則正しく行なう事である。

(土田委員) 食育推進計画はどのような方法で公表しているか。

(4)「4 今後の方向性と課題」について

(許会長) 感染状況に影響を受けにくい形式や対象者の特性に対応した手法を具体化することが重要。

(宇和川委員) コロナ禍は続くと思われ、情報発信と高齢者、障がい者等への情報伝達をどのようにしていくかが、課題にあると思う。また、ライフステージ別の課題、生活環境による課題など個々人に合わせた課題が増えるのではないかとと思われるので、行政のきめ細かな対策が必要になるかと思う。

(齋藤委員) 高齢者世帯などのインターネットやケーブルテレビの視聴環境を整備して、区からの情報や人と人がつながりやすくすることを目指す必要がある。

(小林(颯)委員) 意義と実効性の観点を常に意識して企画・立案すべきである。

(三原委員) コロナ禍で年度ごとの比較が困難ではある一方で、心の病等コロナ禍特有の傾向もみえてくると思うので、分析をして頂き、引き続き区民の健康のため寄与いただきたい。

(土田委員) 数値目標を設定し、PDCAにより事業の実施状況を確認していく事は大変重要である。

(横田(修)委員) もっと事業ごとに話す場があるとよい。

(小林(英)委員) コロナ禍においては自己啓発が大切である。

(井谷委員) 新型コロナウイルスの感染症拡大に伴い、計画全体に様々な影響が出ていることと思う。当面は新型コロナウイルスの感染症対策に充分なりソースを割き、落ち着いたらふたたび健康プランの再開ということで良いのではないかと。

(加藤委員) コロナ禍においては、無理せずにゆっくりと進めていくとよい。

(北村委員) 引き続き目標に向けて実施していただきたい。

(藤井委員) コロナ禍において、取組も難しい場合があるが、実施可能に向けてご検討いただきたい。

(浜名委員) よく言われているように、健康の中心は食・睡眠・運動だが、若い人、現役世代の多くが、これらをないがしろにしつつストレスを益々ためており、取組が重要と考える。スマホ時間を減らす、早く帰ろうといった啓発などはどうか。

(茂田委員) 健康管理は、規則正しい生活・食事管理・睡眠管理を大切にし、自分の健康を守ることが肝要である。

議題2 「歩いて貯めよう！いたばし健康ポイント」事業の実施状況について

(井谷委員) スマートフォンを活用した健康づくり運動ということで、非常に現代に即した意欲的な試みであると思う。平均歩数も十分に伸びているということで、実用性・実効性も高いことが伺える。ぜひこの試みを継続推進していただきたい。

(三原委員) 歩数だけでなく、ポイントが付与されることで、目標が強化され、継続率が高くなっているようであれば、是非今後も引き続き事業を継続頂けきたい。

(宇和川委員) 数値等でみることができるアプリ使用はよい。個別の体重管理、歩数(活動量)が記録されることは目標がわかりやすい。歩数については、歩き過ぎの注意も必要かと思う。

(小井土委員) 目標歩数を設定することで、歩くことを意識するようになり、運動不足解消に役立っている。なるべく歩くようにすることが習慣になってきているので、事業の継続を希望する。

(北村委員) アプリ利用で若い人達を取り込めたのは良かったと思う。数値として結果が表れるので今後も事業を継続しながら参加者を増やして欲しい。より多くの区民に参加いただく事で健康に対する意識が広まるのではないか。

(小林(顕)委員) スマホを持たない方、使えない方には別の方法を用意すべきである。

(柳澤委員) 自分も登録してみたが、ポイント付与のしくみなど、よく分からないことが多かった。歩数に限定などもう少し単純なアプリの方が誰でもすぐに活用できると思った。

(小林(英)委員) 60歳以上も増えていくことが望ましい。

(片寄委員) 参加者の年齢の多くはスマートフォン・アプリを使い慣れている世代で参加しやすいと思われる。今後実施する場合はアプリを使い慣れていない世代にもわかりやすく簡単に参加できるようになると良い。

(藤井委員) 幅広い世代の参加があり、コロナ禍においても良い事業だったのではないか。デジタルが苦手な方にも参加しやすい環境作りも検討いただきながら、継続していただきたい。

(茂田委員) 区は健康無関心層と言われる30~50代の年代の参加を期待しているという事だが、40代・30代・50代の順に多く、区の目指す結果となっている。また平均歩数も7,000~8,000歩と良い数字だと思う。ただ、デジタルデバイドの問題など用語のわからな

い人やアプリの操作方法がわからない人やスマホやパソコンの操作がわからない人がおり、アンケートや健康イベント実施の際の今後の課題と思われる。

(安藤委員) 参加者が少なすぎる。何故参加者が少ないか参加者からの意見を聞きたい。試みは非常に大切な事業で今後確実にすすめるべきである。

(齋藤委員) 参加者がまだまだ少ない。周知方法の検討も必要である。

(小岩委員) SNS でこの事業を目にする機会がなかった。

(横田(修)委員) 全体によいと思うが、会合を持って全体に話が伝わるようにしていけたらよいと思う。

(浜名委員) なかなか良い取り組みと考える。現役世代が多く参加しているのが嬉しい。しかし、女性に比べ男性の参加が少ないことが気にかかる。大病をしてやっと意識するという人や、逆に意識が高く強度の強い運動にはしる人もいる。「ぼちぼちとやろう」という気持ちで活動が続けられる取組が肝要。

(藤垣委員) 体重、BMI などの変化も集計されるのか。

(土田委員) 老人クラブにおいては散歩等、歩くことに真剣に取り組んでいる。具体的などのような方法で周知しているのか知りたい。

(加藤委員) アプリを使って行えるのは良い。若い世代は携帯電話を常備している人が多いので、少し空いた時間でも参加してもらえと思う。このポイントを貯めることにより何かに使用できるのですか。具体的な特典をもっとアピールすると良いのでは。

議題3 受動喫煙防止対策の取組について

(井谷委員) 受動喫煙対策について、コロナ禍にも関わらず積極的に推進していただき、ありがたい。飲食店の店頭標識の掲示率も順調に増加してきているということで、啓発が進んできている。指導・啓発件数も高い水準を維持しており、今後も引き続き受動喫煙対策をお願いしたい。

(藤垣委員) 可能な対策を講じられている。

(宇和川委員) 受動喫煙防止は進んでいるように思われるが、残念ながら喫煙者に遭遇することがあり、マスクをしていても気になることがある。この活動は継続して行うことが大事である。

(横田(修)委員) 様々な所で守られていると思う。

(三原委員) 指導啓発等強化され、実感として受動喫煙する機会が減っている。引き続き取り組んでいただきたい。

(柳澤委員) 社会全体の意識が高まっていると感じる。

(土田委員) 歩きたばこ、喫煙は全体的に減少傾向を示しているが、歩きたばこを目にすることがある。自身も過去に禁煙に成功しており、その経験を周囲の方にPRしている。

(齋藤委員) 路上、店頭の灰皿については、受動喫煙の観点から、その在り方について協力の要請が必要ではないか。

(小林(英)委員) 店頭での喫煙が全廃されることを望む。

(藤井委員) 取組によってだいぶ改善されてきたが、コンビニ等の喫煙場所では人が集まりやすい感じがしている。密を防ぐためにも、喫煙場所に貼り紙など、密を防ぐこと、喫

煙する際でのまわりへの配慮などをおこなってもらうように周知も必要である。

（浜名委員）以前よりかなり喫煙についての危険性は認知された。しかし、喫煙可能な場所が減ったせいか、歩きタバコはその喫煙者数減に比べて減っていないように思う。

（小林（顕）委員）電子タバコ、加熱式タバコも受動喫煙になり得ることを明確に周知していただきたい。

（加藤委員）以前と比べると喫煙者が減ってきたように感じる。若い世代から喫煙・受動喫煙の怖さ等、学校等のカリキュラムで取り組んでいくと良い。私は学校薬剤師をやっているので毎年いただいている授業の単位の中で、タバコの事を取りあげて、受動喫煙の話もしている。

（小井土委員）外食時にタバコの煙の臭いで不快になることがなくなり、歩いているだけでも吸い殻のポイ捨てが少なくなったように感じる。吸いたくないよマークは覚えています、バッジやチラシ（ア～オ）は見た覚えがない。

（片寄委員）受動喫煙に関して店舗、施設における対策は良くなっていると思う。2（2）地域の受動喫煙対策で対策が遅れていると思われる場所の例として成増駅のバスターミナルにある喫煙所ではパーテーション、植木のコンテナ等がおかれているだけの状況である。バスを待つ列との距離が近く、歩行者もその横を通らざるをえないので受動喫煙を避けられない。人流の多い場所の喫煙所の対策を考えてほしい。

（北村委員）高島平駅近くにはコンテナ型の喫煙所が設置されている。成増駅周辺にも受動喫煙対策として設置していただきたい。

議題4 後期高齢者医療健康診査におけるフレイル予防への取組について

（井谷委員）フレイル予防は高齢者の寝たきり対策の基本であり、「アルブミン値」測定については、栄養状態の客観的数値による把握という利点がある。また、健診の間診票でフレイル状況を確認する問診が追加されたので、この問診での回答状況にあわせた指導が行われると良い。

（藤垣委員）アルブミン値低値が、食事摂取不良のせいか、疾患のせいかの区別が必要。

（齋藤委員）予防事業へどのようにつなげていくか、参加継続できるかが課題である。

（柳澤委員）一般の人が見て自分で注意することができる解説が必要。

（藤井委員）要介護状況の把握を行っていくことも事業推進の中では必要になる中、関係機関との連携もスムーズにし、フレイル予防を推進していただきたい。

（片寄委員）後期高齢者のフレイル予防のためにファイル、血液検査を活用し、現状を確認することは良いと思う。将来フレイルになる確率が自分にどのくらいあるかは後期高齢者になる以前からチェックが必要だと思う。予防として自己管理の指標や通いの場など健康支援を充実させていただきたい。

（三原委員）コロナ禍で町会の集会やイベント等中止縮小等人とのかかわりの場が減っており、フレイル予防として、血液検査等とても時代に合った対策をいただき大変ありがたい。

（小林（英）委員）健康診査に「アルブミン値」を追加することは大賛成である。

（小井土委員）通いの場が高齢者の皆様にとって通いやすく、行くことが楽しみになりフ

レイル予防に繋がることを期待する。アルブミン値を知ることで栄養状態を確認し、低栄養の予防と改善のために食事のしかたの見直しができるので項目に追加され嬉しく思う。

(茂田委員) 後期高齢者定期健康診査におけるファイルを各医療機関に配布されたことは非常に素晴らしいと思う。後期高齢者に対し各医療機関が適切にアドバイスをして下さる事を望むのみである。令和4年度よりアルブミン値を血液検査の項目へ追加する事についても大変良いことだと思う。アルブミン値は血液中の重要なたんぱく質でありたんぱく質を合成している肝臓や排泄器官である腎臓の異常を検査する手段として極めて有用だと思う。今、高齢者のフレイル対策が重要視されているので高齢者としては非常にありがたい。

(小林(頭)委員) フレイルの前段階としてオーラルフレイルが位置づけられているが、後期高齢者歯科健診が板橋区では実施されておらず、取組が不足している。

(宇和川委員) フレイル予防は、本人が日頃の様子からチェックできることが大事であると思うので、チェック項目やチェック方法などを配布して、意識していただくことが必要かと思う。本来はコミュニケーションも含まれるが、コロナ禍では難しいところもあるかもしれない。普段動かさずにすむ体の部分を意識して動かすなど、家でできる方法や体を傷めないような配慮などが必要。食事内容について偏りがみられる場合もあるので、情報発信も大事である。

(加藤委員) できれば、みんなで集まってフレイル予防すると良いが、コロナ禍では難しいので、可能な限りオンラインで対応して無理な方々には現地集合してもらうなどの方法で実施すると参加しやすいのではないかと。

(土田委員) つながりを持つことは健康づくりにおいて重要であると思う。また、高齢者はかかりつけ医が絶対に必要だと思う。健康診断が定期的の実施されることは大変ありがたい。

(浜名委員) 人によりかなり差があると思う。75歳よりそれ以前の生活習慣が影響しているということを周知する必要があると感じる。大病してから考える人が多いのではないかと。

その他のご意見

(清水委員) 学校給食において食品を専門店から仕入れることを望む。

2 質問への回答

ご質問	区の回答
<p>議題1 「いたばし健康プラン後期行動計画2022」推進事業の進捗状況について (3) 「3 食育の推進」 について (土田委員)食育推進計画はどのような方法で公表しているか。</p>	<p>食育推進計画は、「いたばし健康プラン～板橋区健康づくり21計画(第二次)～」に包含されています。区ホームページや区政資料室で公表されており、関連事業においてもパンフレット等を用いて周知しています。</p>
<p>議題2 「歩いて貯めよう！いたばし健康ポイント」事業の実施状況について (藤垣委員)体重、BMI などの変化も集計されるのか。</p>	<p>今年度実証事業においては「変化」は集計されません。いただいたご意見を実施団体と共有し、より有益な効果検証ができるようデータ集計方法を検討していきます。</p>
<p>議題2 「歩いて貯めよう！いたばし健康ポイント」事業の実施状況について (土田委員)老人クラブにおいては散歩等、歩くことに真剣に取り組んでいる。具体的にどのような方法で周知しているのか知りたい。</p>	<p>広報いたばしへの掲載、町会掲示板ポスター掲示、老人クラブ連合会や医師会、歯科医師会、薬剤師会等の関係団体を通じたチラシ配付、ホームページ掲載やSNSでの配信など様々な方法で周知しております。</p>
<p>議題2 「歩いて貯めよう！いたばし健康ポイント」事業の実施状況について (加藤委員)アプリを使って行えるのは良い。若い世代は携帯電話を常備している人が多いので、少し空いた時間でも参加してもらえらと思う。このポイントを貯めることにより何かに使用できるのですか。具体的な特典をもっとアピールすると良いのでは。</p>	<p>100ポイントごとに、ドリンクや商品券などが当たる抽選に参加することができ、チラシやポスターに記載し、周知しています。</p>